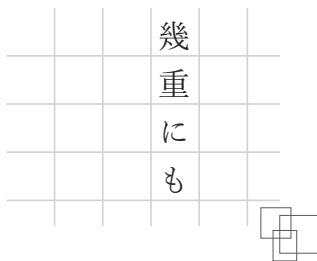




響音

ひびき

Vol.7



Hibiki vol.7 「幾重にも」

✎ “授業から学ぶ”

- ・子供の願いをもとにした単元づくりの工夫
- ・「知りたい!」「やりたい!」生徒たち
- ・学習の道筋を積み重ねる

✎ “研修会の窓”

- ・日本語指導を必要とする児童生徒への支援について一緒に考えませんか?

✎ “考える部屋”

- ・自他の人権を守る実践行動の力を育むために

✎ “SSWの笑門来福”

- ・キャンプと効率化の間にあるもの

✎ “生涯学習課より”

- ・東信地区人権教育スキルアップ講座

形も、厚さも、大きさもちぐはぐな一枚が、無造作に置かれていく。

意図的でも偶然にでも、かすかに、わずかに、重なっていく。

幾重にも、重なっていく。



授業から学ぶ

(小4・国語)
「書くこと」



子供の願いをもとにした単元づくりの工夫 ～総合的な学習の時間で生まれた願いを国語の授業につなげる～

K先生の国語の授業では、子供たちが、教科書の説明文を何度も自発的に読み返しながらパンフレットづくりをする姿がありました。K先生の単元づくりには、どのような工夫があるのでしょうか。

単元名：南牧村のよさをパンフレットにして伝えよう！
～「世界にほこる和紙」・「伝統工芸のよさを伝えよう」～

「来てもらいたいから」を、「もらいたいです。なぜなら」って理由を書いたらどう？

教科書では、例の紹介のとき、「まず」や「その一つは」と、書いている。どっちがいいかな。

自然がいっぱいある例を書く文章だから、「まず」、「次は」って書いてみたら？



このように子供たちは、「理由や例を記述する表現の工夫」に着目して教科書の説明文を何度も自発的に読み返す姿がありました。しかし、K先生は、「説明文の授業は苦手」だったそうです。「子供たちは、物語文は興味をもって読むけれど、説明文は興味をもてなくて。どうしても教師が一方向的に進める授業になっていました」というのです。では、子供たちが何度も説明文を読み返す姿は、K先生のどのような工夫から生まれたのでしょうか。

工夫 その1

学習指導要領解説を読んで国語科として何を学ぶかを確認する



K先生は、「B 書くこと」(1)ウの指導事項を読み、子供たちが教科書の説明文の題材となっている伝統工芸そのものに興味をもち学ぶのではなく、考えを支える理由や事例の示し方を学ぶことが目標であることを理解していました。

第3学年及び4学年(1)ウ

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 P.104) →

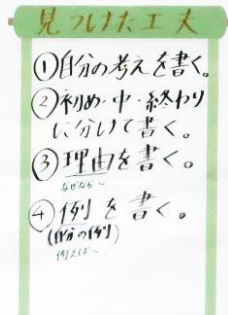
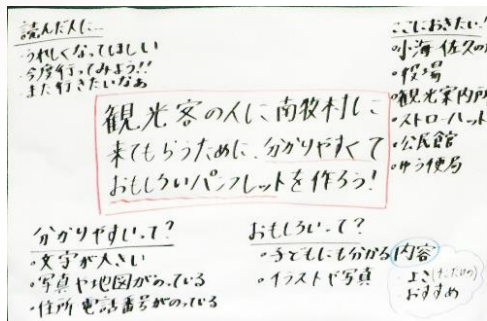


工夫 その2

国語科の目標と子供の実態をつなぐ言語活動を考える

子供たちは、総合的な学習の時間の「南牧村たんけん」で、「たくさんの人に村に来てもらいたい」という願いをもっていました。

K先生は、子供たちの願いを生かして、「南牧村のよさをパンフレットにして伝える」という言語活動を設定していました。



【子供の願いと表現の工夫が並べられた教室掲示】

国語科で育成する資質・能力を明確にし、子供の実態をもとに言語活動を考えることが、子供の願いを大切に単元づくりにつながります。そのことが、説明文を何度も読み返しながらパンフレットづくりをする子供の姿に表れていたのですね。

「教科書を」学ぶのではなく、「教科書で」資質・能力を育成することが大切です。



授業から学ぶ

(中3・理科)
水中で
はたらく力



「知りたい!」「やりたい!」生徒たち ～自ら学ぶ生徒、伴走する教師～

自分の考えを自分で確かめる。自分とは異なる考えに触れる。自分たちで考察する。みんなで結論づける。そんな学びを積み重ねている子供たち。それを支える教師の心構えとは。



【学習問題】浮力の大きさは、何によって決まるか?

【予想】

物体の密度

物体の体積

物体の底面積

物体の表面積

物体の重さ

物体の形

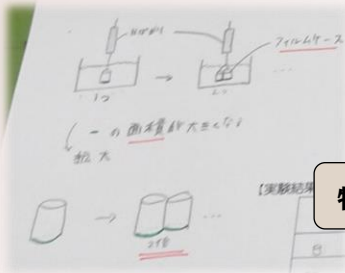
物体の深さ



【学習課題】自分の考えた方法で浮力の変化を調べよう!

【実験】

個人の実験計画を見ながら自分の結果を出していく



物体の形を変えて



物体の表面積を変えて

物体の底面積を変えて

<物体の密度を変えて実験した生徒のやりとり>

容器にコインを入れて浮力を測定。コインの枚数を変化させることで密度だけを変えて浮力を測定する。

Aさん：コイン9枚の浮力を測定→浮力は0.35N

Bさん：「次コイン10枚ね」→浮力は0.36N

Bさん：(浮力があまり変わっていないことに気づき)

「あれ?」

Aさん：「もし(密度じゃなくて別の予想の)体積だったら、次も変わらないはず」

Bさん：コイン20枚の浮力を測定「まずい。0.35だよ」

「信じたくない」

Aさん：「密度じゃないみたいだね」「体積かな?」

【授業者の先生の心構え】

自ら探究する子供を育てたい。そのために、実験の方法を生徒たちに委ね、予想にこだわりをもって粘り強く検証することを大切にしている。生徒に委ねた以上、たとえ結論が導き出せないと思われる実験方法であったとしても、最後まで見守りたい。



生徒たちは、本時得られた結果をもとにして、次時に条件を変えて2回目の検証実験を行い考察していきました。まさに科学的に探究する姿です。生徒たちは、自分で考え、決定し、確かめる学びを幾重にも積み重ねています。教師は、このような子供の主体的な学びを支える伴走者でありたいですね。



授業から学ぶ

(小5・算数)
「単位量あたり」



学習の道筋の自覚を積み重ねる ～数学的な見方・考え方を働かせて～

単元の学習が進んでいる中、子供たちが、前時までの学習で身につけた既習事項をもとに、数学的な見方・考え方を働かせて考えている姿が見られないというようなことはないでしょうか。

小学校5学年算数 単位量あたりの大きさ
(第2時)

本時のねらい：異なる二つの数量の関係に着目して、大きさの比べ方や表し方を考える。

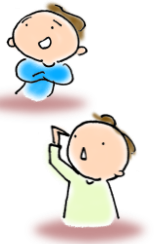
〔問題〕

Aのノートは10冊で1200円、Bのノートは8冊で1000円です。
どちらのノートを買うのがお得でしょうか。

こんな子供の姿はありませんか？

前の時間（どの部屋が一番こんでいるかを考える時間）で割り算を用いて考えたので、今日もきっと割り算で求めればよいだろうと予想して「 $1200 \div 10$ で120、 $1000 \div 8$ で125だから、答えはAのノート」と答えを出すことができる。

しかし、どうして割り算で考えたのか、割り算の答えの120や125は何を表しているのかを問われると、順序立てて答えられない。



なぜ割り算で求めるのかを考える過程はありましたか？見方・考え方を働かせるきっかけをつくってから、追究に入るような展開を考えましょう。

見方・考え方を働かせる
問いかけをしましょう。



AのノートとBのノートは、冊数がちがうね。このように、冊数がちがう時は、どうやって考えたらよいでしょう。

そのままでは比べられないので、それぞれ1冊がいくらかになるかを考えて比べればよいと思います。



問題解決をした後に、どのようにして解決したのかを振り返る場を設けましょう。



今日は、どのようにして、Aのノートの方がお得だと考えましたか？

ノートの冊数がちがうから、1冊の値段を求めてから比べます。なので、割り算で求めました。



自らの考えた過程を振り返り、単位量あたりの大きさを比べること（見方・考え方）を自覚することで、その後に行う練習問題や次の時間（人口密度など日常生活にみられる単位量あたりの大きさをを用いる問題）でも、同じように単位量あたりの大きさを意識して考える姿が期待できます。

数学的な見方・考え方を働かせるためには、答えを出すことのみならず、どのように考えて式を立てたのか、計算の答えは何を表しているのかなどを考え合うことを積み重ね、その時間で働かせた見方・考え方が自覚できるようにしていくことが大切です。



研修の窓

日本語指導を必要とする児童生徒への 支援について一緒に考えませんか？ ～東信地区外国人児童生徒等指導研修会より～

この研修会、どんな人がどんな内容の研修をしているのかご存じですか？
今回の研修会に参加したB先生にお話を伺ってみましょう。

?



研修会に参加した
ことがないA先生

!



研修会に参加した
B先生

この研修会には
どんな人が参加
していますか？



日本語教室の担任や支援員はもちろん、
私のように外国人の児童生徒が在籍する
通常学級の担任の参加もありました。
市町村教育委員会の担当者、地域の支
援団体の方も数多く参加していました。

外国人の児童生
徒が受ける授業を
参観できますか？



上田市内の中学校の授業を参観して、
授業研究会をしました。
日本語教室の授業はもちろん、外国人
の児童生徒が在籍している通常の学級の
授業も公開しています。

授業研究の他に
どんな研修内容が
ありますか？



テーマ別のグループに分かれて情報交
換をしました。
経験の少ない私は、経験豊富な方から
通常学級での支援の仕方をいろいろと教
えていただくととても参考になりました。

さらに参加して
よかったと思った
ことは何ですか？



栗林
さん



西尾
さん

講師の栗林さん・西尾さん（松本市子ど
も日本語教育センター）から、情報交換会
で各テーマについて専門的な情報を提供し
ていただきました。初期指導の教材や指導
案の資料もいただくことができました。



通常の学級
担任のC先生

何から始めるのかについてや、
具体的な教材、困ったときに相
談できる場所などについて、実
際に指導している先生からお話
しが聞けました。
外部にも相談しながら学校体
制を整えて、迎えられるように
したいと思いました。



支援団体の
Dさん

私は地域の日本語教師とい
う立場ではありますが、先生
方の日々の悩みや現状を知る
ことができ大変勉強になり
ました。
学校への支援として何かお
役に立てることがないか考え
ていこうと思いました。

外国にルーツがあり日本語指導を必要とする児童生徒数が年々増加する中、どのように支援したらよいか分からず、困っている先生方も少なくないのではないのでしょうか。東信教育事務所ではこのような研修会を年2回（6月・11月）行っていますので、来年度、ぜひ研修会へご参加ください。



考える
部屋

自他の人権を守る実践行動の力を育むために

各学校では、秋頃に人権教育強化期間が設けられ、日頃の指導に加えて、人権課題に関する直接的指導や行事等も行われています。ここでは、特に学校人権教育として育成を目指す児童生徒の資質・能力について考えましょう。

学校人権教育を通じて
育てたい資質・能力

自分の人権を守り、他者の人権を守るための“実践行動”

学校人権教育は、児童生徒が、人権の意義や重要性について理解し、自他の大切さを認めることができるようになり、それが様々な状況下で具体的な態度や行動に現れる（実践行動）とともに、人権が尊重される社会づくりにむけた行動につながることを目指しています。

では、具体的にどのような姿が期待されるのでしょうか。例えば、身の回りにいじめだと感じられるようなことがあった場合に、それを解決するために具体的な行動が起こせることなどが実践行動にあたります。しかし、それは教えれば実現するようなものではありません。

まず、それがいじめであるとしっかり認識できること。そして、それを敏感に察知し、許さないと感じられること、そして、解決のための技能を備えていて、初めて実現できると考えられています。

わかる かんじる そなえる



考えましょう

2人にとって、実践行動の実現につながるために必要な力は、それぞれ何でしょうか。

Nさん

動植物に優しく、人に対して思いやりがあり、争い事を嫌い、身の回りが平和であることを願っている子です。しかし、問題事に直面したときには、自分の気持ちを伝えたり、解決するための方法を考えたりできず、丸ごと他者に任せてしまうところがあります。



Sさん

人権問題や差別に関する知識が十分にあり、学ぶ意識があり、発言力もあります。しかし、自分に直接関わりのないことには、あまり関心を示すことがなく、問題事に対しては、自分の立場を優先してしまう一面があり、時として正しくない判断や行動もしてしまいます。



実践行動の実現につながる力をつけるために、日々の授業や日常的な指導において、どのような工夫やアプローチができるのでしょうか？



SSWの 笑門来福

みんなの笑顔のために

キャンプと効率化の間にあるもの ～SSWの支援。生活している実感はありますか？～

「リアル」を感じるための、きっかけを考えています。



今回は、とあるSSWが日々感じていることを、綴らせていただきたいと思います。

近年は、キャンプブームと言われていますが、年一回以上のキャンプを経験した人の割合は、それでも日本の全人口の6%程と言われています。私はテントを張らずとも、車中泊のオートキャンプをしていますので、こちらに含まれるようです。

キャンプは不便を愉しむところがあると思いますが、普段の生活の中では、物事を効率よくこなすことに注力してしまいますね。キャンプであっても、次第にそうやってくるのが人間というものなのかもしれません。

そして、コスパ、タイパ重視という風潮もある中で、「一体何を楽しんでいるのか」という疑問を感じずにはいられません。しかし、メディアからの情報が溢れる環境で育った世代には、余計にそうならざるを得ない状況があるのも事実です。Z世代の次はα世代と呼ばれており、生まれたばかりの赤ん坊から小学生くらいまでを指します。α世代の特徴として、「飽きっぽい」ということがあるようです。情報の海の中では、選択肢が無限に感じられるからでしょうか。携帯電話のなかった子ども時代を過ごした私の当たり前は、もはや異世界の話です。



SSWは、日中家で過ごす時間の多い子どもの元へ、家庭訪問をすることがあります。そうした子どもの多くは、タブレットやスマートフォンなどで、ゲームや動画に触れて過ごしています。そこには、多様な世界と価値観、理想、今いる場所ではない居場所、人との繋がりなどの刺激が詰まっているからです。そうした中で私が感じて欲しいことは、「現実にも居場所が作れる」ということです。

今、街中には少しずつ新たな場が生まれてきています。子ども食堂だけでなく、映画鑑賞やサークル活動など、さまざまな体験ができる機会もあります。学校でうまく過ごせなくても、自身の存在を感じられるような体験。そんなことが少しあるだけで、視界が開けてくるものです。

私は農業や料理が好きです。皆さんは、サラダや焼き菓子などに載せるパンプキンシードが家でも作れることをご存知でしょうか。南瓜の種の固い殻の中に、それは入っているのですが、種を洗って乾燥させてからキッチンバサミなどで取り出していくので、時間も労力も必要ですが、途中で

止めたとしても、種を土に戻せば新しい芽が出てきます。もったいない、という感覚はなくなり、ただただ、循環の中で自分の体に入れる部分があるだけなのだ、と感じたことがあります。作り方を人から教えてもらったことがきっかけで、こうした気付きを得ることができました。

人の社会は分業によって発展してきましたが、一連のことを通して行わなければ分からないことがあります。最短距離で首尾よく何かを得たとしても、それは、ただそれだけのことかもしれません。理不尽に苦労を重ねればよい、というものでもありません。

SSWは、課題を「医学モデル」で個人の中にあるものとして捉えるだけでなく、「生活モデル」で環境にも働きかけていきます。現実により自身の存在を感じ、自身でそれを認められること。そのために、対等に向き合いながらきっかけを作っていきたいと考えています。



東信地区人権教育スキルアップ講座 ～7月27日・10月5日 オンライン開催～

地域の人権リーダー育成を目指した本講座。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、オンラインでの実施となりましたが、大勢の皆さんに参加していただき充実した講座になりました。

第1回 7月27日

「丸子地域の被差別部落の歴史と差別戒名に学ぶ」

部落解放同盟 上田市協議会 辰ノ口支部長 深井 武文さん

差別戒名とは・・・

被差別部落の人々にかつてつけられた差別的な意味合いを持つ戒名のこと。江戸時代中期から昭和20年代までつけられていました。

深井さんは「現在の部落差別問題は、解放令後の100年間、具体的な政策を行ってこなかったのが問題である」と鋭く指摘されました。被差別部落の人々が、死後も差別されてきた事実と、厳しい差別を受けながらも誇りをもって生きてきた強さを感じる講演でした。



「丸子地域解放子ども会の取り組みと現状」

丸子地域教育事務所 社会教育指導員 荻原 敏行さん

同推教時代のエピソードから

「私も部落なんだよね。だから私も結婚できないの？」姉の結婚差別の現実を目の当たりにしたAさん。共に悩み、受け止めてくれた解放子ども会の仲間たちの存在。

丸子解放子ども会での取り組み

- ・様々な人権課題に対する、正しい理解 →たとえ差別を受けたとしてもそれに負けない。
- ・小中で足並みを揃えた解放学習の推進

この子たちには差別によって命を落としてほしくない

第2回 10月5日

「日本にくらすこと 日本であったこと」

ガパオライスキッチンカー経営 黒沢 ナパーパンさん

講師との対談形式で行いました



日本に来てからどんなことが大変でしたか？

日本語です。言葉が分からなくて、仕事があまくいかず、泣いたこともありました。

どのように日本語は勉強されたのでしょうか？

いつもノートと辞書を持ち歩いていました。同じ職場の人に聞いたり、テレビを真似たり、カラオケなどで歌から覚えたり、色々なやり方で覚えました。

外国人の方がより住みやすくなるために必要なことは何でしょう？

日本語教室や交流会、食事会・・・みんなが気軽に話が出来たり、相談したりできる場所がもっとあるといいですね。

それぞれの人権課題と真正面から向き合ってきた講師の話は胸に迫るものがありました。気づき、知り、そして行動を起こしていくことが人権課題を解決していく上で大切だということに気づかされた講座でした。

